

第1回 一宮川流域における令和5年台風第13号による災害検証会議 議事概要

1 日時 令和5年11月17日(金) 13:00~15:20

2 場所 ホテル プラザ菜の花 3階 菜の花1

3 出席 別添資料「出席者一覧」のとおり

4 議事概要等

(1) 検証会議設置に関する説明

- ・ 事務局から資料1「一宮川流域における令和5年台風第13号による災害検証会議設置要綱」を説明。
- ・ 東京大学 加藤孝明委員が座長に選任された。

(2) 現状の説明

- ・ 事務局から資料2「令和5年台風13号による災害の状況について」を説明。
- ・ 委員から以下の意見があった。
 - 令和元年10月25日大雨を上回る既往最大の大雨であったほか、上流域で強い雨が降った後に下流側で強い雨が降るなど、治水上不利な条件であった。一方で浸水被害状況は、浸水深が大幅に減っていることが特徴であり、これまでの治水対策の効果が一定程度発揮されたと思われる。
 - 今後の検討にあたり、氾濫水の体積を算出し、水収支の状況を整理すること。また、住宅被害だけでなく農業被害についても整理し考慮していく必要がある。

(3) 意見交換

- ・ 委員から以下の意見があった。
 - 客観的事実に基づき、シミュレーションモデルを用いて必要となる精度に合わせた検証を行う方針とする。これにあたり次の留意点があげられる。
 - ◇ 降雨に関する情報はレーダー雨量等の詳細なデータを活用する方がよい。
 - ◇ カメラ映像の解析や地域への聞き取り等により、浸水状況に関する情報の収集に努める。
 - ◇ 特に延長数mの高さ不足を扱う範囲は、精緻な解析により、浸水の原因と影響を評価する必要がある。
 - ◇ シミュレーションモデルによる解析は再現性に限界があることに留意する。
 - ◇ ケーススタディにより、これまでの治水対策効果をしっかり示す必要がある。

以上